

## 石油価格は当面高止まり、ADB 予測

【香港、2008年9月16日】 アジア開発銀行(ADB)は16日、最新の経済見通しである「[アジア開発展望2008年改訂版](#)」(ADOU)を発表した。それによると、石油価格が高く、かつ変動的な状況は長引くものと思われ、それによりアジアの開発途上国では、経済成長が弱まるほか、各国政府はエネルギーの節約を国民に奨励するなど、痛みを伴う政策調整を強いられることになりそうだ。

ADOUによると、石油価格は最近になってやや下落したもののその傾向は長く続かず、アジアの爆発的な成長によって石油供給サイドへの圧力が更に増すため、少なくとも2020年までは1バレル100ドルを上回る状態が続くものと予測される。

報告書では、今後予想される石油の価格動向と、それがアジアにもたらす影響について、詳細な分析を行った結果、エネルギーの純輸入国であるアジアは、石油価格上昇の長期化によって打撃を受けると警告している。

[ADBのチーフエコノミスト、イフサル・アリ氏](#)は、「石油価格は当面高止まりが続く。アジアの開発途上国はその現実に早く気づいたほうがよい。アジアは過去数年、石油の価格上昇にもかかわらず堅調な成長を遂げてきたが、アジアの成長基調が石油の価格高の影響を今回も免れると思い込むのは拙速だろう。今後、石油価格上昇が長引くことによって、アジアの成長見通しがマイナスの影響を受けることはほぼ確実と言ってよい」としている。

ADOUによれば、石油価格は2003年に上昇し始めたが、70年代に石油の供給が一時的に混乱したために起きた前回のオイルショックと根本的に異なる。今回の価格高は、急増する需要に供給のスピードが追いついていられない点が主な要因とされる。

目覚ましい急成長を遂げてきたアジアの開発途上国は、エネルギーの輸入欲が強く、それが既に石油の国際価格に大きな影響を及ぼしてきた。ADOUによれば、今後アジアと中東の存在が石油価格に対して上昇圧力をかけるだろうとしている。更に、需要増にともない石油

---

### お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: [amochizuki@adb.org](mailto:amochizuki@adb.org)

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>

の備蓄量が縮減すれば、投機筋による価格上昇予測とも相俟って、石油市場における価格変動性はさらに強まるだろうとしている。

現在、石油の供給が持ち直し、需要が弱含むことで価格がやや一服している点について ADOU は、短期的な現象にすぎず、依然として需給ギャップが残ることから、今後 10 年間、再び高騰し始めるだろうと見ている。

アリ氏は、アジア開発途上国の政府関係者は今回の石油価格の長期見通しに危機感を持つべきとしている。「アジアの開発途上国では産出量の 3 倍に相当する石油を消費しており、今回の分析結果は到底軽視されるべきものではない。今、手を打たなければ、明日には膨らんだツケが回ってくる。マクロ経済やエネルギー面の政策調整は、痛みを伴うがやらなければならない。各国の政府関係者は、補助金や税金といったアメとムチを使い分け、企業や国民に対し石油の消費効率の向上を呼びかけるべきであり、その意味でいくつかの国で燃料補助金制度や価格統制が廃止されつつあるのは、好ましい傾向だ」としている。

---

**お問い合わせ先**

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: [amochizuki@adb.org](mailto:amochizuki@adb.org)

ADB のニュースリリース ( 和文 ) は、下記 URL にてもご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>